

「歯と口の健康週間」に寄せて 口腔と全身疾患の関連から考える 医科歯科連携の重要性

沖縄県立中部病院 歯科口腔外科 比嘉 盛敏



毎年6月4日から10日まで実施される「歯と口の健康週間」は、口腔保健の重要性を広く啓発する機会として長年続けられてきました。近年、口腔の健康は単に「食べる」ための機能にとどまらず、全身の多様な疾患と密接に関わっていることが知られています。本稿では、医師会の先生方に共有したい口腔と全身疾患の関わり、そして医科歯科連携の重要性について述べます。

代表的な口腔疾患である歯周病は、わが国の成人の多くが罹患し全身疾患と密接に関連する慢性炎症性疾患です。「令和6年歯科疾患実態調査」によれば、55歳以上の各年齢階級では4mm以上の軽度歯周ポケットを有する者の割合が50%を超えており(表1)、その影響は口腔内にとどまらず、全身に波及します。なかでも糖尿病との関連は極めて深く、両者は「双方向性」の負の連鎖を形成しています。歯周病による慢性的な炎症は、炎症性サイトカインを介してインスリン抵抗性を増悪させ、血糖コントロールを悪化させると考えられています¹⁾。一方で適切な歯周治療によりHbA1cが改善することも報告されており²⁾、2024年度診療報酬

改定において糖尿病患者に対する歯周病安定期治療の評価が新設されたことから、その重要性が示されています。

また歯周病菌やその代謝産物が血流を介して動脈硬化を促進し、虚血性心疾患や脳血管疾患の発症リスクを高める可能性が指摘されています³⁾。さらに早産・低体重児出産との関連も報告されており⁴⁾、口腔管理は歯科領域にとどまらない全身管理の重要な要素といえます。

高齢化社会においては、口腔機能の維持は健康寿命の延伸に直結します。近年提唱された「オーラルフレイル」(図1)は身体的フレイルの入り口として注目されており、滑舌の低下や食べこぼし、軽度のむせといった些細な変化が低栄養やサルコペニアを招き、結果として全身の虚弱を進行させます。誤嚥性肺炎の予防においても口腔衛生管理の介入効果が示されており、専門的口腔ケアを受けた群では肺炎発症率および死亡率が低下したとの報告があります⁵⁾。

当院では入院時から看護師、看護補助員、言語聴覚士、歯科衛生士など多職種が共通の評価表を用いて口腔内状態を確認し、電子カルテ上で情報共有することで早期の口腔管理介入につ

表1 歯周ポケット(4mm以上)を有する者の割合(%)の年次推移、年齢階級別

年齢階級(歳)	平成11年(1999年)	平成17年(2005年)	平成23年(2011年)	平成28年(2016年)	令和4年(2022年)	令和6年(2024年)
15~24	10.4	7.2	8.5	17.6	17.8	24.7
25~34	21.5	21.6	17.8	32.4	32.7	25.8
35~44	31.5	26.6	24.3	42.6	34.7	28.0
45~54	43.4	42.2	33.2	49.5	43.7	43.0
55~64	50.0	49.8	47.0	53.7	47.5	56.6
65~74	45.5	48.9	46.5	57.5	56.2	56.2
75~	28.0	36.5	44.9	50.6	56.0	56.5

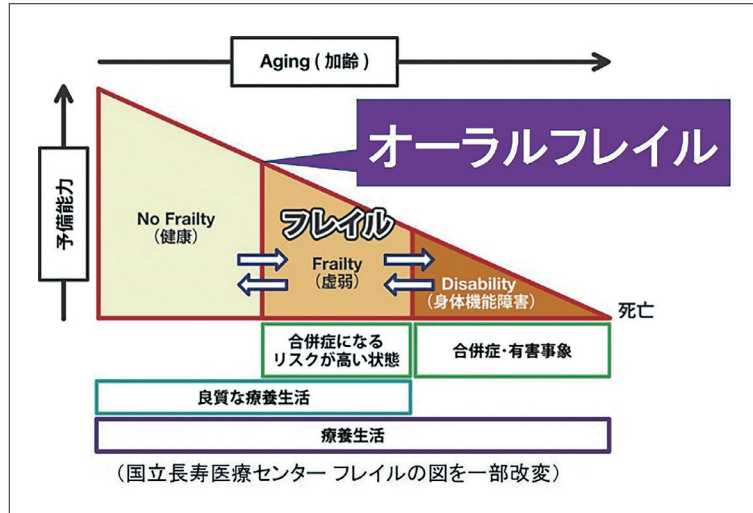


図1 高齢社会とフレイル

なげています。口腔内を侵襲的治療前に清潔な状態へ整えておくことで、その後の管理負担が軽減され、周術期や長期挿管、化学療法などのイベント時にも安定した口腔環境を維持しやすくなると考えています。

また、口腔管理が必要な患者には専用の個室環境で計画的な口腔機能管理を行い、プライバシーに配慮した担当制診療を実施しています。移動困難な患者に対しては歯科衛生士が病棟やICUへ赴き、看護師と協働しながら専門的口腔ケアを提供しています。このような継続的な介入は院内感染対策や全身状態の安定にも寄与すると考えられます。

さらに、がん治療や心臓手術などの周術期においては、口腔内細菌が術後合併症のリスクを高めることが知られており、術前からの口腔機能管理は肺炎発症率の低下や入院期間短縮に寄与することが示唆されています⁶⁾。薬剤関連顎骨壊死の予防や、長期絶食・長期酸素療法が予定される患者への事前対応など、医科から歯科への適切な紹介のタイミングが重要となります。

こうした背景を踏まえると、口腔の健康を守ることは歯科医師のみが担う領域ではありません。日常診療において医科の先生方が食事摂取状況、口腔乾燥、義歯適合不良などに関心を向けていただくだけでも、早期介入が可能となります。紹介状に全身疾患や服用薬剤、治療計画

を記載していただくことで、より安全で適切な歯科医療の提供につながります。一方で歯科医師も全身状態への理解を深め、口腔所見や治療経過を医科へ適切にフィードバックする責任があります。

この「歯と口の健康週間」が、口腔と全身の健康の関係を再認識し、医科歯科連携をさらに推進する契機となることを願っております。

参考文献

- 1) Nishimura F, Murayama Y. Periodontal inflammation and insulin resistance--lessons from obesity. *J Dent Res.* 2001.
- 2) Iwamoto Y, et al. The Effect of Antimicrobial Periodontal Treatment on Circulating Tumor Necrosis Factor-Alpha and Glycated Hemoglobin Level in Patients with Type 2 Diabetes. *J Periodontol.* 2001.
- 3) Bida FC, Curca FR, et al. The Systemic Link Between Oral Health and Cardiovascular Disease: Contemporary Evidence, Mechanisms, and Risk Factor Implications. *Diseases.* 2025.
- 4) Puertas A, Magan-Fernandez A, et al. Association of periodontitis with preterm birth and low birth weight: a comprehensive review. *J Matern Fetal Neonatal Med.* 2018.
- 5) Yoneyama T, Mitsuyoshi Y, et al. Oral care reduces pneumonia in older patients in nursing homes. *J Am Geriatr Soc.* 2002.
- 6) Soutome S, Yanamoto S, et al. Effect of perioperative oral care on prevention of postoperative pneumonia associated with esophageal cancer surgery: A multicenter case-control study with propensity score matching analysis. *Medicine (Baltimore).* 2017.